



欠席連絡は
こちらから

虹のかけ橋

第50号

発行 校長

先日の第3回学校運営協議会におきまして、学校評価委員の皆様方から今年度の学校評価についてのご意見を頂戴しました。成果と課題を明確にして、今後の学校運営に生かしてまいります。誠にありがとうございました。

NO. 1 【学習指導について】

重点目標 学ぶ意欲と主体性を高め、確かな学力の定着を図る。

現 状

県学習状況調査（4～6年生）において、国語、算数はどの学年も県平均を上回り、5、6年生は昨年度からの経年比較でも大幅な向上がみられた。一方で社会と理科が県平均を下回っていることが課題となった。

CRT（1～3年生）において、知識・思考面はどの学年も全国平均をやや下回っているが、態度面では2教科とも全国平均を上回った。12月に全校児童に行った学習意識アンケートでは「学校の授業の楽しさ」について「楽しい（好き） やや楽しい（やや好き）」と回答した児童は、前年度の80%から92.6%に向上した。

	国語	社会	算数	理科
6年	○	△	○○○	△
5年	○	△△	○	△
4年	○	△	○○	○○

※△は-5%以内 ○は+5%

	国語			算数	
	観点	知識	態度	知識	態度
3年	△	○○	△	○	
2年	△△	○	△△	○○	
1年	△	○	△	○	

具体的な目標

- 1 授業に対する学習アンケートで、肯定的な回答の割合90%以上を維持する。
- 2 秋田県学習状況調査・CRTにおいて、県平均・全国平均と同等もしくは、それ以上を目指す。

目標達成のための方策

- 1 「個に応じた指導」「対話的な学び」を重視した授業を展開し、学ぶ意欲と主体性を育む。（生徒指導の三機能を生かした授業）
- 2 教科担任制指導と算数を中心としたTT指導の実施を通して、学力の向上を図る。
- 3 単元評価問題、パワーアップタイム（練習問題、音読、スピーチ、国語・算数全校テスト）に取り組み、基礎学力の定着につなげる。
- 4 授業と連動した家庭学習の習慣を身に付ける。
- 5 授業研究や校内研修を充実させ、教員の授業力向上を図る。

具体的な取組状況

- 個別の学習状況（意欲、つまずき、悩み）の把握に努め、適切な指導と支援を行うこと、学習の過程や成果を積極的に評価することの積み重ねを行う。
- 話し合い活動を取り入れ、教師の手立て（思考の可視化、重点の板書、発問の工夫）により、協力して課題解決に取り組み互いに高め合う姿勢を養う。
- 教師の専門性を生かした教科担任制指導を実施し、子どもの学習意欲の向上を図っている。また、算数でのTT指導を通して、個に応じた指導を行い学習につまずいている子どもへの支援を継続して行っている。
- 単元評価問題やモジュール授業、全校国語・算数テストの実施、家庭学習への指導などを通して、継続的に基礎学力の定着を図っている。
- 年2回の学習意識アンケート、定期的な校内研修、外部指導者を招いての授業研究会を通して、教師の指導力向上と授業改善を図っている。

達成状況

6月と12月に全校児童に実施した学習アンケートの結果は以下の通りである。。

- ◎学校の授業が楽しい(やや楽しい)
94.6%→95.3% (+0.7%)
- ◎「そういうことか」と授業で気付くことがある
92.3%→95.3% (+3.0%) (時々ある)
- ◎授業で「なるほど」と思うことがある(時々ある)
94.6%→95.3% (+0.7%) となり、児童の意識の変容が見られる。

	国語	社会	算数	理科
6年	○○	○	○○	△△
5年	△	○	○	△
4年	△	△	△	△

※△は-5%以内 ○は+5%以内

	国語			算数	
	観点	知識	態度	知識	態度
3年	△△	○	△△	○	
2年	○	○	△	○	
1年	△	○	△△	○	

県学習状況調査（４～６年生）では、国語、算数、社会はどの学年もおおむね県平均またはそれ以上であったが、理科が全学年とも県平均を下回っていることが今後の課題と考えられる。CRT（１～３年生）において、知識・思考面はどの学年も全国平均をやや下回っているが、態度面では２教科とも全国平均を上回った。

自己評価	(評価)	<p><目標１について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年によって意識に多少の差はあるものの、授業に対する学習アンケートでは、肯定的な評価が90%以上となった。 ・授業の中で「そういうことか」「なるほど」と児童が気付く場面が多いと回答しているのは、問題探究型の授業や対話による話し合い活動を充実させてきたことが、児童の満足感や達成感に結びついているのではないかと考える。 <p><目標２について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県学習状況調査では、昨年度の課題となっていた５、６年生の社会が県平均通過率を上回ることが出来た。その他はほぼ平均並であるが、理科に関しては全学年で県平均通過率を下回っている点が大きな課題である。 ・CRTの全体通過率はほぼ全国平均並みであるが、経年比較で見ると、２年生や３年生は昨年よりも回復傾向であると言える。 <p>課題が見られる資質・能力（正答率85以下）は、</p> <p>言語能力…１年国語（75） 主体的・対話的な場面…１年算数（81） 論理的・批判的な思考力…１年算数（71）</p> <p>が挙げられるが、それ以外は全国平均並またはそれ以上である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・態度面では、すべての学年の全教科で全国平均を上回った。 ・県学習状況調査とCRTの結果を受けて、各学年で回復・補充のための指導を行っているところである。 	C
	B		

↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(根拠)	C
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでの肯定的な評価が92.6%となり、目標を達成したことと、前年から大幅に向上したことを高く評価する。国語、算数は県平均を上回っているが、社会、理科は下回っていることから数値目標については達成されていないためB評価とする。 ・子どもたちを身近で教え、良し悪しを理解している先生方の評価を尊重してB評価とする。 ・学習アンケートの結果がすばらしい。社会がレベルアップにつながっていることを嬉しく思う。理科も同じように取り組めば必ず向上すると思う。CRTも態度が全国平均を上回っているのだから、知識も必ず向上すると思う。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって毎日の授業が楽しいものとなり、よく分かったという満足感と達成感を味わうことができるということが、学びを成立させるための第一条件と捉えている。今後も校内研修や授業研究会等を更に充実させ、授業改善と授業力向上を図っていく。また、児童の実態や学習アンケートの結果の分析を基に指導者が共通理解を図り、授業に反映させていく。 ・各教科で課題となっている「言語能力」の向上に努め、読解力や表現力を養うことに重点を置いた学習活動の展開を進めていく。 ・教科担任制やTTといった指導形態の工夫を重ね、学習内容の定着を図る回復指導や補充指導は、学力の定着ならびに向上につながる方策として継続していく。 ・確かな学力の定着につながる取組（学習規律の定着、読書活動の推進、基本的な生活習慣の確立等）を継続的に重点と捉え、家庭と連携して推進していく。 	A

No. 2 【生徒指導】

重点目標	場に応じたあいさつや返事の定着を図る。
------	---------------------



現 状	<p>11月に実施した保護者アンケートでは、「進んであいさつや返事を行うなどの礼儀ができています」という質問で全校2.77点であった。(前年比-0.03点) 校外指導部員へのアンケートでは、「あいさつがきちんとできている」という意見とともに、「もう少し大きな声だと良い」という意見をいただいた。</p> <p>児童会運営委員による「教室を巡回しての呼びかけ」「各学年のあいさつ名人の紹介」等の活動によって、全校児童に「あいさつをがんばろう」という気持ちが芽生えてきている。</p>
-----	--



具体的な目標	保護者・地域住民への「あいさつ・返事」に関するアンケート調査で、平均3.0点以上を目指す。
--------	---



目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童会・子ども会を中心に、全校で「あいさつ運動」を展開する。 2 大内中学校と連携して、小中合同あいさつ運動を実施する。 3 ふだんの授業や学級活動、道徳の学習などで「礼儀（あいさつや返事）」の大切さについてその意義を考え、実行することができるように励ます。 4 学校だより等で保護者や地域住民に「あいさつや返事」の指導・協力を依頼する。
------------	--



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「めがせあいさつ名人 なんでもチャレンジ みんなが輝く岩谷っ子」をテーマとし、児童会運営委員を中心にあいさつ運動を行っている。あいさつの良い児童を「あいさつ名人」として放送で紹介したり、玄関ホールに「あいさつの花を育てよう」を掲示したりして、意識の高揚を図っている。 ○6月と10月に大内中生徒会との小中合同あいさつ運動を実施。大内地区の小中子ども会議（オンライン）を実施し、重点事項を3校で確認した。 ○全校集会であいさつや返事の大切さと励行について指導するとともに、学級でも日常的、継続的に指導するなどして全校で取り組んでいる。 ○校長が朝、校門前で全校児童に朝の声かけを行っている。 ○あいさつの意義や学校での取組について、学校だよりや学年だよりを通じて紹介し、あいさつの励行について地域・家庭に協力を依頼してきた。
----------	--

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○11月に実施した保護者アンケートでは、「子どもが進んであいさつをしたり場に応じた言葉遣いをしたりしている。」という質問は全校3.0点であった。(昨年比+0.3点) このことに関しては、保護者の関わり方として「お子さんにあいさつ・言葉遣い・マナー等の基本的なしつけをしている。」が3.5点と意識の高いことが、向上した理由の一つと考えられる。 ○児童会運営委員の教室を巡回しての呼びかけや、各学年のあいさつ名人を紹介する等の活動によって、全校児童に「あいさつをがんばろう」という気持ちが芽生えてきている。
------	--



P

D

自己評価	(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域住民への「あいさつ・返事」に関するアンケート調査では、目標であった平均3.0点以上を達成することができた。 ・児童会のあいさつ運動、校報・全校集会での呼びかけ、学級指導、小中合同あいさつ運動等、具体的な取組により、その時々意識は高まり行動に表す姿が見られるようになった。登下校時や地域の中でも「笑顔でさわやかなあいさつ」に元気をもらっているというありがたい声をいただいた。 ・児童によっては、なかなか「元気に大きな声で」のあいさつは難しかったりするが現状である。相手に自分の気持ちを伝えられるようなあいさつを目指して、今後も引き続き励ましていく。 	C
------	---------------	--	---

↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・平均3.0以上の目標が達成することができた。保護者や地域住民にも指導・協力を依頼し、教職員と一体となって目標達成に向けて取り組んだ。 ・子どもたちを身近で教え、良し悪しを理解している先生方の評価を尊重してA評価とする。 ・学校での取組が子どもたちのやる気を向上させていると思う。朝の集団登校時のあいさつも、だいぶしっかりできるようになってきた。特に、低学年の子どもたちが、大きな声であいさつすることができるようになってきている。 	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会の活動や小・中学校の連携等、あいさつ・返事の励行につながる取組は引き続き継続していく。その際には、児童が自主的に活動に取り組むことができるように賞揚していく。 ・教師側でも、授業でのあいさつ等を率先垂範し、学習習慣を確立するための取組として共通理解し、実践していく。 ・学校の取組とともに家庭へ協力を仰ぎ、学校と家庭が連携してあいさつの向上及び児童の望ましい生活習慣の確立に取り組んでいく。(校報、PTA等) 	A
-----------------------	--	---